

第8回「演習課題への挑戦(1)」

レポートを書く（応用編）

レポートの構成

たいていのレポートは「序論」「本論」「結論」の三部構成になっている。

- 序論「読む人に向けて、これから何について、なぜ書こうとするのかを知ってもらう」
 - 背景の説明：前提なる知識や事実を紹介
 - 問題の提起：そのテーマのどこに問題点・疑問点を見つけたのか
 - 目的の提示：何を明らかにするのか
- 本論「問題提起したことへの答えを出す」
 - 事実の提示：事実を明らかにする（複数の）
 - 意見の提示：事実に基づく意見を述べる
 - 最終的な主張の提示
- 結論「全体を通しての主張をまとめる」
 - 全体のまとめ：これまで述べてきたことを整理し、最終的な主張の妥当性を確認してもらう
 - 評価と展望：成果について客観的に評価し、今後どのように発展させるか

参考文献の示し方

- 引用したり参考にした資料があれば、その出典（情報の出所）を、「参考文献」として書き出す
- 参考文献として示すのに必要な情報は、奥付（巻末の、著者や出版社、出版地が書かれた部分）にある
- 複数の参考文献を書くときは、著者名の五十音順またはアルファベット順に並べる
- 参考文献の示し方には、分野や年代によって、いくつかの書き方があることに注意

1. 単行本（単著、共著）

- 書式：著者名『書名』、出版社、出版年（西暦）。
 - 例：安田雪『実践ネットワーク分析』、新曜社、2001年。
 - 例：増田直紀、今野紀雄『複雑ネットワークの科学』、産業図書、2005年。

2. 単行本（編著）

- 書式：編著者『書名』、出版社、出版年（西暦）。
 - 例：佐藤嘉倫・平松閣編『ネットワーク・ダイナミクス』、勁草書房、2005年。

3. 翻訳書

- 書式：原著者名『書名』、翻訳者名、出版社、出版年（西暦）。
 - 例：アルバート＝ラズロ・バラバシ『新ネットワーク思考』、青木薫訳、NHK出版、2002年。

4. 雑誌論文・記事

- 書式：著者名「論文名・記事タイトル」『雑誌名』、巻・号、発行年（西暦）、ページ。
 - 例：中山洋、大和雅俊、山口正二、玉田和恵、松田稔樹「情報ののぞき見を題材とした情報モラル指導教材へのVRの活用に向けた実験的研究」『教育システム情報学会誌』、Vol.24 No.1、（2007年）、pp. 26～34。

5. インターネット上の情報

○書式: 著者名または発行者名「文書名」、URL(閲覧日:西暦での日付)。

■例: 総務省情報通信政策局「平成21年度情報通信白書」、
<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h21/index.html> (閲覧日:2010年6月9日)。

参考文献

- 学習技術研究会編著「知へのステップ 改訂版」, くろしお出版 (2006.10)
- 専修大学出版企画委員会編「知のツールボックス」, 専修大学出版局 (2006.04).
- 佐藤望編著, 湯川武, 横山千晶, 近藤明彦「アカデミック・スキルズ」, 慶応義塾大学出版会 (2006.10).
- 小笠原喜博「大学生のためのレポート・論文術」(講談社現代新書 1603), 講談社(2002.04).
- 河野哲也「レポート・論文の書き方入門 第3版」, 慶応義塾大学出版会 (2002.12).

宿題

- 文献リストをもとに、図書館で本を1冊借りて、その本の書評を書いて提出すること(次回の授業で口頭で本を紹介:5分程度)
 - 使用する紙のサイズは、A4サイズ(枚数は制限なし)
 - 手書きでもワープロで印刷したものでもよい
 - 1枚目は表紙として、次のように書いておくこと

「基礎ゼミⅠ」レポート

2010年6月16日(水)提出

健康科学部 健康システム学科

学籍番号 自分の氏名